

次号予告

特集 精神遅滞

精神遅滞の「治療」概念の変遷と今後の

方向性と課題……………愛知コロニー 高橋彰彦

精神発達遅滞児の早期療育……………川崎心身障害センター 中山修・他

精神遅滞の治療・教育……………埼玉大学 西村章次

精神遅滞の作業療法……………国療東京病院リハ学院 鷺田孝保

<資料> わが国の精神薄弱対策の変遷

……………旭川荘旭川児童院 江草安彦

とびら 一身体で学ぶ……………吹田療育園 山田貞雄

講座 医事法規3. 理学療法士及び作業療法士法の

逐条解説(2)……………厚生省健康政策局 松田功

痴呆5. 老人の痴呆とボケへの対応……………慈恵医大 笠原洋勇

プロGRESS 抗生剤の知識……………順天堂大学内科 池本秀雄

あんてな 第8回リハビリテーション交流セミナー

……………東京都心身障センター 長田香枝子

編集後記

3月は、入学試験、進級判定、卒業式と、教育機関にとっては忙しい月です。教師にしてみれば、一年間のけじめをつけるときであり、成績をつけながら、自分の実施した授業に不全感を抱く時期でもあります。

4月になって入学式を迎えると、今年こそ準備万端整えて、居眠りする学生は、絶対に出さない、と心に誓います。しかし、学生の反応に教師自身も満足感を持ち、醍醐味を味わえるような授業は、年間を通して数える程しかありません。若者の感性は授業の成否のバロメーターとして、おそろいほどに鋭敏なのです。

今月号の特集は、4月にふさわしい教育をとりあげました。高橋靖直氏は高等教育における教授法の不在とその背景を明確に提示されています。また具体的な教授法についての言及からは、数多くの示唆が得られます。武富氏には「理学療法概論」、木

村氏には「作業療法原理」、高橋正明氏には「運動学」、立野氏には「臨床医学」を、それぞれ実際に担当している経験を土台にして具体的な教授法を、展開して戴きました。

いずれの論文も各氏の教師としての喜びと苦悩が行間からにじみ出て来る個性的な力作です。実際に授業することと、それを教授法として文字で表現することは、別の時限であり、ある意味では——教室の聖域を公開することでもあります。その点、快くお引き受け下さった各氏には、改めて感謝申し上げます。特に、木村氏の論文は、具体的教材を含めて授業の流れがイメージ化しやすく、生き生きした授業風景を彷彿とさせるものです。

PT・OTの専門科目の教授法は継続的に取り上げていきたいテーマのひとつです。読者諸氏からの御意見、御批判をお待ちしております。(富岡 詔子)

<編集顧問>

天児民和
九州労災病院名誉院長

五味重春
埼玉県障害者リハビリセンター所長

砂原茂一
国立療養所東京病院名誉院長

津山直一
国立身体障害者リハビリセンター病院長

(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上田敏
東大リハビリ部

荻島秀男
ペインリハビリテーションクリニック高島平
整形外科

大喜多潤
兵庫県リハビリセンター

寺山久美子
都心身障害者センター

富岡詔子
信州大学医療技術短大

奈良勲
金沢大学医療技術短大

福屋靖子
筑波大学

松村秋
都養育院リハビリ部

<編集同人>

池松洋子

伊東元

岩崎テル子

宇都宮初夫

金子誠喜

鎌倉矩子

木村信子

菊地延子

小嶋裕

斎藤みち子

鈴木明子

高橋正明子

田口順子

橋元隆宏

古松博

宮崎和子

宮前珠子

山田貞雄

矢谷令子

(担当 細川・西塚)